

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 川本恵子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医学科病態獣医学系の教員に所属し、主に獣医学科の学部生を対象に微生物学（病原細菌と病原真菌）に関する基本的な専門知識と技術を教えている。微生物学では、感染症の原因としての病原微生物学を中心に、耐性菌問題や動物の体表や腸管で共生する細菌による常在細菌叢による恒常性の維持やその破綻による疾病なども扱う。

また、動物応用科学科の学生に対し、感染症概論、代表的な細菌性人獣共通感染症、食品媒介感染症を講義している。

研究室所属生への研究指導では、卒業研究は様々な能力を必要とするアクティブ・ラーニングであるため、主体的に考える力、論理的思考力、創造性、問題解決力、学生同士で協力し合う姿勢とコミュニケーション能力の習得を導く。また、生涯学習に必要なスキルを教える。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医微生物学総論	獣医学科	必修	2	約160名
獣医微生物学各論Ⅰ（細菌・真菌）	獣医学科	必修	2	約160名
獣医微生物学実習Ⅰ	獣医学科	必修	3	約160名
獣医免疫学	獣医学科	必修	3	約160名
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	約150名
微生物学	動物応用科学科	必修	2	約160名

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医師が活躍する分野は、臨床だけでなく、食品衛生や食肉衛生、フードセキュリティ、越境性動物疾病や人獣共通感染症の制御、環境保全など幅広く、また、近年の微生物学や感染症学の広がりが獣医師の役割に広がり直結し、獣医師に対する社会のニーズは年々多様化している。また、獣医学部生は多くの動物をその対象とし、必然的に医学生よりも多くの微生物種を学ぶ。しかし、その専門教育を受けるのは日本の全大学生290万人のうち、約0.03%と極めて少数である。獣医師国家試験に合格することは重要だが、そのための暗記教育に終始することなく、「微生物学の基本的な専門知識・技能の定着」から「活用」そして「創造」と「生涯学習」へ繋がる教育を常に意識し、キャリア形成において遭遇する様々な局面での課題発見能力や問題解決能力のある人材育成を目指している。

動物応用科学科の学生に対しては、まず感染症や微生物に対する興味を持ってもらえるような身近な話題を使って解説し、入口は低くしながら、新聞やニュースにはない視点での専門的見地を伝える。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- 微生物学におけるDay Oneコンピテンシー（卒後1日目の獣医師に必要な知識と技能）を設定し、6年かけて卒業までに目指すレベルを最初に伝える。
- 微生物学は後の学年で学ぶ多くの科目と関わり、それらの科目を深く理解するための土台（ファウンデーション）の一つである。講義の冒頭に、担当科目について、それを学ぶ意味と他の科目との関連性を説明し、体系的な学習をサポートで切るよう心がけている。
- まずは興味を持ってもらえるよう、そして専門用語や略語の洪水で学生を押し流してしまわないよう、最初から細かいことは説明せず、特に講義の前半はとりかかりやすいよう平易な言葉を心がけ、時間を長めにとって説明している。また、重要項目について、小テスト等で学生の理解度をモニタリングし、少しずつ授業のスピードと難易度を上げていくようにしている。
- 膨大な知識量の取得を要する微生物学の海で学生が溺れたり、方向性を見失うことがないようにガイドしていきたい。一方で、微生物学を単なる暗記科目と誤解しないよう、創造性のある学問領域であることを意識してもらえるよう最新の文献情報なども取り入れている。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義：復習テストや繰り返し視聴のできる講義録画を用意、細菌の形態や感染症症状については動画や画像を多用してイメージのしやすさを意識している他、授業内でのクイズや実際の事例から考えさせる、など

実習：PBL, グループワーク、オンライン教材、学生主導のプレゼンテーションとディスカッションなど

（2）ICTの教育活用

有

- Google Formや麻布大学LMSである學理による予習、復習支援、独自の授業評価アンケート)
- Google Meetによるオンデマンド講義
- e-Learningコンテンツ作成、など

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

- なるべく簡潔で、見やすいスライドを作成すること
- 平易な言葉や例えで、理解しやすい表現を意識
- 医学・獣医学教育のPedagogicalなアプローチに基づいて、対象とする微生物やそれによる疾病、各種同定、検査・診断法がイメージしやすい図や画像を多く取り入れている。
- 教科書内の順序にとらわれず、グループ分けして覚えやすいよう講義の順番を工夫している。
- タブレットを利用したデジタル板書
- 微生物学的手技の動画作成
- ディスカッション形式の実習：実習結果の判定、微生物同定へのプロセスを総合的に考えるディスカッション形式のグループワークやシナリオに基づく感染症診断など

(2) 学生の理解度の把握

B

授業中の質問アンケートや學理を利用した復習テストの実施で形成的評価を行い理解度の把握に努めている。 正解率の低い問題については翌週解説している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

- 到達目標の細かい設定と明示
- 講義毎の小テストと結果へのフィードバック、講義録画の公開、参考資料の作成
- 小テストには単純な知識を問う問題と実際の症例に基づく臨床シナリオを用意し、Problem-based learningを取り入れている

(4) 学生とのコミュニケーション

B

学生への質問には全て対応しているが、自ら質問しない学生で成績不良者への早期対応で改善の余地があると感じている。授業外でオンラインでの質問相談やメールでの相談に対応している。

(5) 双方向授業への工夫

B

授業中の問いかけやMeetを利用したアンケートやチャットなど。教えるべき項目が多く、講義時間が不足し、双方向のやりとりに十分な時間を割り当てられていない。

(6) 国家試験対策の取組 (獣医学科・臨床検査技術学科)

B

- 講義前に総論を中心とした知識の確認試験を行い、学生の理解度を把握した上で、講義資料を作成した。微生物学に限ったことではないが、獣医学では膨大な量の知識を扱う。スライドは簡潔な内容にし、押さえるべき重要項目を中心に解説した。
- アンケート結果から、学生が苦手とする菌の学名の読み方、グラム染色性、重要な感染症、鑑定培地、などの覚え方や情報をまとめたスプレッドシートを作成して共有している。
- スマホの暗記アプリを使った反復復習法について補講を行なった。上記のスプレッドシートは暗記アプリにインポートできるので、暗記カードの一括作成に活用できる。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

アンケートの意見から学生が間違いやすい点や理解しにくいと感じる点について、より丁寧な説明を心がけた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業スライドでハイライトやキーワード学習が好評だったので、引き続き継続する。実習ではグループワークの学習効果が高かったが、一方で他力本願な学生が真面目な学生の努力に依存するところが見られた。次年度はリアルタイムで学生の理解度が把握できる方法を考えたい。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

実習で身につけて欲しいスキルについて明示し、学生のセルフ評価を促す（ルーブリック評価など）。授業スケジュール半ばでの独自アンケートにより、授業への要望や感想などリアルタイムでも把握できるようにする。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

アクティブラーニングの導入をさらに増やす。自習コンテンツを充実させる。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

実習ではグループワークについて肯定的な意見が多く、同様のアクティブラーニングについては今後も続ける。実習で身につけて欲しいスキルについて明示し、学生のセルフ評価を促す（ルーブリック評価など）。授業スケジュール半ばでの独自アンケートにより、授業への要望や感想などリアルタイムでも把握できるようにする。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

できる限り積極的に研修に参加している。参加できない場合は動画視聴ができるので助かっている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期的な目標：

- 主にティーチングスキルの更なる改善。
- 関連科目の担当教員と授業内容について相互確認し、無駄な重複や重要な項目の脱落がないようにする。
- 学生の理解を助けるe-Learning コンテンツの作成（実習手技の動画の充実）

長期的な目標：

- 微生物学分野における麻布大生のコンピテンシーと質をさらに高める。学生が大学で受けた専門教育を基に、いかなる職業であっても、自主的に課題や問題を見出し、解決する能力を育てる。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

e-Learningコンテンツは担当科目の学理ページに全てアップしているので、そちらを参照ください。